

第 5 1 7 回遊佐町議会定例会一般質問通告書

平成 2 9 年 2 月定例会

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
1	3 番 菅原 和幸 (一問一答)	<p>1. 農業施策の転換期への対応について</p> <p>2. 新たな振興計画と財政見直しについて</p>	<p>国主体で実施してきた主食用米の生産調整は、半世紀ほど経過した平成 2 9 年産米を以て廃止され、生産者が自らの経営判断や販売戦略に基づく、需要に応じた生産へと移行することになる。</p> <p>山形県農業再生協議会は、本年の夏頃を目途に、1 8 年産以降の推進方法や対応を示すとしているが、管内の J A と農政対策推進協議会から本町に対し、行政の積極的な関与と指導を求める要請があったようである。</p> <p>政府も、農業競争力強化に関連する法案整備を図るが、農業を基幹産業と位置付ける本町は、今後どのように対応されるか。</p> <p>第 8 次遊佐町振興計画に係る第 1 期実施計画が昨年末に策定され、消防本部遊佐分署整備等を含め重要事業が予定されている。</p> <p>財政面の裏付けが重要なポイントとなるが、財政健全化判断指標では、実質公債費及び将来負担の比率が改善されている。</p> <p>今後の財政計画と課題について伺う。</p>
2	4 番 筒井 義昭 (一問一答)	<p>1. 一次生活圏の維持可能な町の施策が求められているのではないか</p>	<p>昨年度より取り組まれている地方創生総合戦略事業は、地方の人口と働き場の確保と創出を目的とした事業と考える。</p> <p>遊佐町でも人口減少が急速に進み、地域コミュニティーの維持が叫ばれている状況である。</p> <p>町において、一次生活圏を維持確保することが町存続に向けた今後の大きな課題と考える。</p> <p>町の中細胞ともいえる一次生活圏維持の為に地域循環型経済の小さな拠点づくりや、一次生活圏における共助システム構築に向けた施策を講じることが求められているのではないか。</p>

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
2	4 番 筒井 義昭 (一問一答)	2. 遊佐高校支援策の充実と、先を見据えた取り組みを	遊佐高校支援策と、高校の担当教員の努力が実を結び、平成28年度においては定員を上回る受験者数であった。 今後も必要に応じた支援策を講ずるべきと考えるが、山形県公立高校入学者選抜方法改善検討委員会で検討されている「県外からの志願者受入れ」を視野に入れた取り組みが町には必要と考える。
3	7 番 阿部 満吉 (一問一答)	1. 町の都市計画、グランドデザインは	人口減少の中で、暮らしやすい町とするためのグランドデザインをゾーン毎に考えてみたい。 ①町の中心となる庁舎ゾーン ②医療・福祉ゾーン ③商業ゾーン ④農業及び産業ゾーン ⑤豊かな自然に満ちた居住ゾーン ⑥パーキングエリアタウンを中心にした観光拠点ゾーン これらをどう整理・整備してゆくか。
		2. 庭・ガーデンコンテストを	かつては庭園を巡るバスツアーがあった。今ツデーマーチに限らず、JR駅を起点とする湧水巡りなど、ウォーキングに訪れる方も増えてきた。歩く人達に心和むガーデンを増やすため、コンテストの取り組みを。
4	2 番 松永 裕美 (一問一答)	1. 無電柱化と町の観光と町外への有効的な発信について	○安全の確保と良好な景観の形成を目指した町の無電柱化推進について町の考え方は？ ○豊かな水資源をベースに丸池様・胴腹ノ滝をどのように整えつつ、町外へ更に発信していくのか？ ○町のグランドデザインを考えた上で、景観に配慮した新たな町民の為の施設計画は？(子供達の為、屋根のみ有りのサッカー・テニス練習場/六次産業活性化の建物建設予定地は)
		2. マスメディアを上手に活用した町のPR推進の提案	○16年目にして初めてふるさとCM大賞受賞のきっかけをバネに次の戦略はどのように町は考えているのか？

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
4	2 番 松永 裕美 (一問一答)	3. 遊佐高校への 全面バックアッ プと P R 等のサ ポート案につい て	○町内唯一の高等学校存続の為、町がサポ ート出来ることは何か？違う角度からの支 援策や少年議会の良さや遊佐高校ならでは の取り組みを町外に広く発信する為の今後 のビジョンは？
5	8 番 佐藤 智則 (一問一答)	1. 学校適正整備 に関する現状認 識と今後の計画 推考にタイムラ グはないのか	○今日の児童数における認識は。 ○少子化の進捗により、1 小学校になるタ イミングが早まるのではないか。(H 4 2 年度を目途としているが) ○H 3 2 年度、3 3 年度の吹浦小、高瀬小 2 ヶ年の入学者数をどう捉えるのか。 ○段階的な統合はしない方針であるが、い かに。 ○どの時点において学校適正整備審議会開 催となるのか。(H 3 2 年、H 3 3 年吹浦 小、高瀬小の状況を踏まえて) ○どの段階で住民説明に入るのか。 ○1 小学校となった時の閉校後の利活用は どの様なことが考えられるか。
6	1 1 番 斎藤 弥志夫 (一問一答)	1. ジオパークの 活用	ジオパークの目的は認定を活用して地域 を活性化させることにある。鳥海山・飛島 ジオパークは鳥海国定公園とほぼ同じであ るが、交流人口の増加、教育の強化、地質 遺産の保全、観光拠点づくりの推進が主な 目標である。交流人口の増加については約 7 割のジオパーク協議会が、目的が達成さ れていないとしている。交流人口の増加と ジオパークの認知度を上昇させる方策につ いて伺う。
		2. 施政方針	施政方針は町政運営の概略であるが、次 の 3 点について伺う。 ・企業誘致活動の現状と展望 ・空き家対策と景観の保持 ・児童生徒数の減少と町民との意見交換

通告順	通 告 者	質 問 事 項	要 旨
7	9 番 高橋 冠治 (一問一答)	1. 国定公園エリアの見直しは	<p>昨年9月9日に日本ジオパークに鳥海山・飛島エリアが認定を受けいよいよ、本格的にジオサイトを中心にした「まちづくり」を町民あげて推進していかなければならない。</p> <p>それに伴い鳥海山の国定公園のエリアの見直しも必要になるのではないかと。なぜなら、ジオサイトの中心となる胴腹ノ滝周辺は国定公園のエリアから外れており、周辺環境の維持・保全に基本となる国定公園エリアに組み込むべきと考えるが、町の対応は。</p>
		2. 学校給食費無料化の一考は	<p>わが町の子育て支援策は、年を追うごとに充実してきており、子育てしやすい環境がかなり整ってきた。子育て世代の反響も良く、大変好評である。</p> <p>平成27年度、児童・生徒数の9.3%が給食費を免除されており、今後も増える傾向にある。そこでもう一步踏み込んだ子育て支援として、学校給食費の無料化を一考しては如何か。</p>
8	1 番 齋藤 武 (一問一答)	1. 小中学校給食費等の今後のあり方について	<p>事例はまだ少ないものの、全国的にみれば小中学校の給食費等を無償化している自治体があらわれてきている。遊佐町においては給食材料の地産率が一定程度あり、これを拡充していくことは重要である。また医食同源とも言われ、給食費の無償化は、現在実施している18歳までの医療費の無償化に通ずるものもある。</p> <p>財源確保の問題もあり直ちに全面实施することは難しいかもしれないが、段階的な実施を検討する時期に来ているのではないかと。</p>
		2. 役場職員の受験資格は見直すべきではないか	<p>役場職員の受験資格（住所要件）が、少なくとも最新の昨年7月の募集要項時点では、いまだに、就学等のために町外に居住している場合を除き、「遊佐町に住所を有する者」に限られている。この要件の合理的な理由は何なのか。</p> <p>多様な人材が必要であり、多くの自治体で住所要件を設けていない中において、この要件は直ちに見直すべきではないかと。</p>